

※評価について ◎：目標年度における目標を既に上回っている。○：このまま取り組み、目標達成の可能性が高い。△：このままでは、目標達成にはかなりの努力が必要。×：このままでは、目標達成の可能性が低い

取り組みの柱1 「地球環境にやさしいまちづくり」

No.	所管課	環境指標	環境指標説明	計画策定時の現況値	目標値	実績値(2021年度)	当該年度における目標値	評価	評価結果に対する理由及び今後の取り組み等
1-①	環境政策課	温室効果ガス排出量	市内から排出される温室効果ガスの排出量。「郡山市気候変動対策総合戦略<<区域施策編>>」に定める目標値とします。 なお、目標値の変更があった場合には、その目標値によるものとします。 ※国が公表する各種統計データを待つ必要があることから、3年前の数値が最新のものとなります。 ※2021年12月に、算定に使用する「都道府県別エネルギー消費統計(1990年度から2018年度分)」が改訂となったため、計画策定時の現況値及び目標年度の目標値を変更しました。(計画策定当初：現況値3,417千t-CO2、目標値2,538千t-CO2)	3,169千 t-CO2 (2013年度)	2,834千 t-CO2 (2019年度)	2,871千 t-CO2 (2019年度)	2,834千 t-CO2	○	2019年度の郡山市における温室効果ガス排出量は、2019年度の目標を達成することはできませんでしたが、達成率98%と目標値に近い数値となっており、2030年度の目標達成に向け、引き続き気候変動対策を推進していきます。 部門別の温室効果ガス排出量については、産業部門、家庭部門、業務部門はそれぞれ基準年度比で平均18%の削減となっていますが、運輸部門は約13%増加となっていることから、次世代自動車の導入促進やモビリティ・マネジメントの推進等を積極的に取り組んでいきます。(別紙1参照) ※なお、第四次環境基本計画では、郡山市気候変動対策総合戦略の内容を踏まえた計画としています。
1-②	環境政策課	市の事務及び事業による温室効果ガス排出量	市の事業により排出される温室効果ガスの排出量。「郡山市気候変動対策総合戦略<<事務事業編>>」に定める目標値とします。 なお、目標値の変更があった場合には、その目標値によるものとします。 ※計画改定による算出方法変更のため、計画策定時の現況値及び目標年度の目標値を変更しました。(計画策定当初：現況値41千t-CO2、目標値34千t-CO2) ※ごみ焼却に係る排出量は、計画策定当初は郡山市役所から出るごみのみから算出していましたが、今回は市内クリーンセンターで焼却されるごみの全量から算出しているため現況値及び目標値が計画策定当初より変更となっています。	120千 t-CO2 (2013年度)	101千 t-CO2 (2021年度)	98千 t-CO2 (2021年度)	101千 t-CO2	◎	基準年度比で18.5%減少、昨年度比で5.2%減少しました。 今後におきましても、省エネルギーの取り組みを継続するとともに、公共施設のLED化や再生可能エネルギー設備の積極的な導入を行っています。 ※なお、第四次環境基本計画では、郡山市気候変動対策総合戦略の内容を踏まえた計画としています。
1-③	環境政策課	電力消費量に占める再生可能エネルギー導入割合	市内の電力消費量を2013(平成25)年度比で30%以上削減することを目指すとともに、30%の省エネ効果を加味した電力消費量の50%を再生可能エネルギーとする「郡山市気候変動対策総合戦略」に定める目標値とします。 ※国が公表する各種統計データを待つ必要があることから、3年前の数値が最新のものとなります。 ※2021年12月に、算定に使用する「都道府県別エネルギー消費統計(1990年度から2018年度分)」が改訂となったため、計画策定時の現況値及び目標年度の目標値を変更しました。(計画策定当初：現況値16%、目標値30%)	20% (2013年度)	33% (2019年度)	33% (2019年度)	33%	○	2013(平成23)年度より太陽光発電が68,488kwh増えたこと、また、市内における電力消費量が132,894kwh減るなど減少傾向にあることから、再生可能エネルギー導入割合は計画どおりに進んでいます。今後も再生可能エネルギー導入拡大に向けて取り組んでいきます。 ※なお、第四次環境基本計画では、郡山市気候変動対策総合戦略の内容を踏まえた計画としています。
1-④	建築課	省エネルギー・再生可能エネルギー設備が導入された市有施設数	新設や改修を予定している市有施設に対し、省エネルギー設備または再生可能エネルギー設備の積極的な導入に努めます。目標値は新築、改修する全ての施設に対しての導入を目指します。	—	新設、改修する施設の100% (2021年度)	100%	100%	◎	新設及び改修工事を実施した市有施設の照明をLED化(省エネ)しました。(23施設中23施設) 今後も同様に省エネルギー設備及び再生可能エネルギー設備を積極的に導入していきます。

取り組みの柱2 「資源が循環するまちづくり」

No.	所管課	環境指標	環境指標説明	計画策定時の現況値	目標値	実績値(2021年度)	当該年度における目標値	評価	評価結果に対する理由及び今後の取り組み等
2-①	3R推進課	1人1日当たりのごみ排出量	市民1人が1日に出すごみの量(集団資源回収を除く)。「郡山市一般廃棄物処理基本計画」に定める2027年度の1人1日当たりのごみ排出量を現況値から20%削減する計画値に合わせた目標値とします。	1,141 g (2016年度)	1,036 g (2021年度)	1,132 g	1,036g	×	前年に比べ、生活系ごみが減少したため、ごみ全量も減少しています。しかし、郡山市の人口減少率がそれを上回ったため、1人1日あたりのごみ排出量は昨年度(1,127g)より増加し、2021年度の計画目標値を達成できませんでした。今後は、さらなる分別の徹底や3Rの推進により計画値達成に取り組んでいきます。
2-②	3R推進課	再生利用率	市で回収する再生利用率。(分別回収回収量+破碎回収金属量+集団資源回収量) / (ごみ総量+集団資源回収量) 「郡山市一般廃棄物処理基本計画」に定める2027年度の再生利用率を26%とする計画値に合わせた目標値とします。	10.3% (2016年度)	17.5% (2021年度)	10.4%	17.5%	×	行政による資源物の回収量、不燃ごみ等の破碎回収量、町内会や子ども会が実施する集団資源回収量全てが前年度より減少しているため、再生利用率としては前年度より0.5%減となりました。達成すべき目標から遠のいたため、今後はさらなる分別の徹底を周知し計画値達成に取り組んでいきます。

取り組みの柱3 「自然と共生できるまちづくり」

No.	所管課	環境指標	環境指標説明	計画策定時の現況値	目標値	実績値(2021年度)	当該年度における目標値	評価	評価結果に対する理由及び今後の取り組み等
3-①	環境政策課	カッコウの生息数	郡山市の鳥カッコウの生息数。カッコウの生息状況は、自然環境の状態を表すひとつの目安となることから、確認された数の現状維持を目標とします。	178羽 (2016年度)	現状維持 (2021年度)	—	現状維持 (178羽)	△	日本野鳥の会郡山支部による「カッコウ調査」の継続が困難になり、2020(令和2)年度より現況値の把握ができない状況のため、第四次環境基本計画においては、新たな指標を設定しました。
3-②	林業振興課	間伐実施面積	国有林を除く市内民有林の年間の間伐実施面積。森林の適正な整備・保全の推進により、水源かん養や山地災害防止など森林の有する多面的機能を持続的に発揮させるため、2025年度の年間間伐実施面積を現況値の1.5倍とする整備計画に合わせた目標値とします。 ※福島県が公表する統計データを待つ必要があることから、2年前の数値が最新のものとなります。	232ha (2015年度)	302ha (2021年度)	246ha (2020年度)	302ha	△	森林整備を進めるに当たっては、所有者の経営意欲の低下や所有者不明の森林の増加、境界未確定の存在や担い手不足等が大きな課題となっていますが、今後も引き続き、本市が事業主体で実施する「ふくしま森林再生事業」等により間伐を推進し、森林の適正な整備・保全を図ります。
3-③	園芸畜産振興課	有害鳥獣による農産物の被害面積	有害鳥獣による農産物の被害面積。有害鳥獣被害の減少が、森林や農地の保全につながることから、「郡山市鳥獣被害防止計画」に定める目標値とします。なお、目標値については当該防止計画の変更と併せて見直すものとします。 ※2021年に鳥獣被害防止計画が変更されたことに伴い、計画策定時の目標年度の目標値を変更しました。(計画策定当初：目標値4.4ha)	7.6ha (2016年度)	3.4ha (2021年度)	3.3ha	3.4ha	○	有害捕獲等による個体数管理、侵入防護柵の整備による被害防除対策、耕作放棄地の適正管理の普及啓発による生息環境管理の推進により有害鳥獣による農作物の被害面積が減少しました。

取り組みの柱4 「健康で安心して暮らせるまちづくり」

No.	所管課	環境指標	環境指標説明	計画策定時の現況値	目標値	実績値 (2021年度)	当該年度における 目標値	評価	評価結果に対する理由及び今後の取り組み等
4-①	環境保全センター	工場・事業場からの排出ガス基準達成率 (大気汚染防止法)	大気汚染防止法に基づき、工場・事業場から排出されるガスの基準達成状況。	99% (2016年度)	100% (2021年度)	99% (2020年度)	100%	○	揮発性有機化合物排出施設については目標達成しましたが、ばい煙発生施設については目標達成しなかったため、今後は、ばい煙等を排出する工場及び事業場へ対しての更なる指導及び監督に取り組んでいきます。
4-②	環境保全センター	市内の河川水質の環境基準達成率	市内の河川(7地点)における水質調査地点でのBOD測定値の環境基準達成状況。 阿武隈川(阿久津橋)、五百川(石筵川合流後)、逢瀬川(馬場川合流前・幕ノ内橋上流・阿武隈川合流前)、大滝根川(阿武隈川合流前)、谷田川(谷田川橋)	7地点中6地点で 環境基準値以下 (2016年度)	全地点で 環境基準値以下 (2021年度)	環境基準値以下 (2021年度)	全地点で環境基準値以下	◎	市内の河川毎のBOD測定値は、長期的には年々低下し、ここ数年はほぼ横ばいとなっています。今後も市内の河川の水質汚濁状況を監視するために、定期的な調査に取り組んでいきます。
4-③	環境保全センター	ダイオキシン類環境基準達成率	大気、河川の水質、河川の底質、地下水、土壌におけるダイオキシン類の環境基準達成状況。	環境基準値以下 (2016年度)	環境基準値以下 (2021年度)	環境基準値以下 (2021年度)	環境基準値以下	◎	既に目標年度における目標を達成していますが、今後もダイオキシン類を排出する可能性がある廃棄物焼却等を設置する工場及び事業場へ対しての指導及び監督に取り組んでいくとともに、環境中のダイオキシン類の状況について調査を実施していきます。

取り組みの柱5 「環境を思いやる人を育むまちづくり」

No.	所管課	環境指標	環境指標説明	計画策定時の現況値	目標値	実績値 (2021年度)	当該年度における 目標値	評価	評価結果に対する理由及び今後の取り組み等
5-①	環境政策課	環境啓発イベントの参加者数	市が主催する環境啓発イベントの参加者数。イベントを通じて、多くの市民に環境意識の高揚を図るため、現況値の2倍の参加者数を目標値とします。	1,100人 (2017年度)	2,200人 (2021年度)	3,190人	2,200人	◎	今後も福島県地域温暖化防止活動推進センター等と連携した活動を行うなどして、イベント等を通じて、環境意識の醸成を図ります。